第二十三講　日本文化論・建築論

われわれ日本人の「うち」は家であり、家の外の世間は「そと」であるということを建築の空間領域的に見直すと、靴をぬいでくつろいでいる空間は「うち」であり、靴をはいている空間は「そと」であるということができよう。

そこで、一つの卑近な例をあげてみよう。いわゆる西洋式ホテルと、温泉観光ホテルのように旅館から出発したホテルとの違いは、一体どこにあるのであろうかということを検討してみたい。両者とも外観を見れば堂々たる鉄筋コンクリート造の近代建築であるが、内部に繰り広げられる空間の秩序はまったく異なっているのである。それは「内部」と「外部」との境界の置きかたによるのである。旅館から出発したホテルは、まず第一に玄関で靴を脱ぐ。通常、われわれ日本人にとっては靴をぬいだ所から「内部空間」に入ると考えられるから、玄関ロビーも廊下もエレベーターもすべて「内部」であり、ゆかたに丹前（たんぜん）で自由に闊（かっ）歩（ぽ）できる空間であり、むしろ背広にネクタイの正装でいる方が場違いであるような感じすらするのである。そして通常、旅館式ホテルの玄関は夜は鍵（かぎ）を締めるかわりに個室には鍵をかけない。入浴のような個人的で私的な行動も海や山の見える景勝の大浴室で多数の人が一緒に行う。日本人にとって、旅館は「［A］」の拡大された「内部」の空間であり、ここに偶然泊り合わせた人々は家族の一員であるようにふるまうのが喜ばれるのである。

それに対して、いわゆる西洋式のホテルではどうであろうか。通常、ホテルの玄関は二十四時間開放されていて、靴をはいたまま自由にロビーや廊下を歩くことができる。これらの空間は日本式のホテルの空間とは異なって、［B］のような外的秩序の延長であり、また、公的な空間でもある。であるから、これらの場所でたまたま泊り合わせた人々と馴れ馴れしくしたり、ゆかた、パジャマ、ステテコだけで闊歩することは、ここを「外部」と考えている人々にとってはいかにも不都合である。西洋風のホテルでは個室はきちんとした壁や頑丈な扉（とびら）によって区別され、その扉には精巧な鍵が取り付けられている。この個室ではじめて「内部」に入ったと考えられるから、靴をぬぐことも、ゆかた、ステテコ姿になることもまったく自由である。その代り、個室を出るときは、わが国で家の玄関を靴をはいて出るのと同じ意味をもつ。靴をはいて個室を出れば、家庭内の食堂であろうとホテルの食堂であろうと街のレストランであろうと同じく「外部」である。西欧の伝統としての「内部」「外部」の意識には

このような考えがあると思われる。

さて、靴をはいたまま暮らす西欧的雰囲気とは、独立した個の［C］による外的秩序の空間であり、靴をぬいで暮らす日本的雰囲気とは、わけへだてのない個の［D］による内的秩序の空間であるということができる。ここで外的秩序は内的秩序に必ずしも優(まさ)っているとも考えられない。内的秩序には外的秩序にない親密感や安心感があり、住む人々に仲間意識やくつろぎを与えてくれる。しかしながら空間領域には意識の上で内外の別があり、どこにこの境界線をおくのかということを強く意識する必要があると考えられるのである。たとえば、列車の寝台車やホテルの廊下を外的秩序と思っている人々と、E同じ場所を内的秩序と思っている人々とが同席すると、服装、態度、話し方等が不調和で、お互いに不愉快な思いをすることがあるからである。

わが国では伝統的に、家の内部に整然たる秩序をととのえ、家族を中心に一軒ごとに内的秩序を保ってきた。内部に秩序をもつということは、別な見方をすると建築の外部には無関心であることを意味し、F都市空間の充実という構想は稀薄であった。それに対し、西欧諸国では、イタリアの広場などに見られるように建築の外部にも美しい模様の舗装が古くから発達し、また家の中まで靴のまま入るという習慣が生れてきた。この西欧の生活の中には外的秩序の考え方があり、日本の住いの中で行われるようなことが外で行われる。

（芦原義信の文章による）

問１　空欄［A］～［D］にはそれぞれどんな言葉を補ったらよいか。次から最も適当なものを一つずつ選べ。

Ａ　①　家　②　庭　③　室　④　街
Ｂ　①　世間　②　世界　③　街路　④　会社
Ｃ　①　融合　②　隣接　③　対立　④　協調
Ｄ　①　交際　②　消滅　③　互助　④　集合

問２　傍線線Ｅの部分について。列車の寝台車・ホテルの廊下などを「内的秩序」と思っている人々はそれらの場所でどのようにふるまうだろうか。本文中にも例が示されているが、それとは別の例を一つ挙げて、句読点とも十五字以内で答えよ。

問３　傍線線Ｆの部分について。わが国において都市空間の充実という構想が稀薄であったのはなぜか。「靴をはいている」または「靴をぬいでいる」ことと関連づけて、その理由を句読点とも四十字以内で述べよ。

問４　次のうち、本文の筆者の考えと合致するものを二つ選べ。

①　床の間に置物を飾る日本人には、広場に彫刻を置こうという考えは当然のことと感じられ、本来それは都市空間の充実につながるべきであった。

②　最近のわが国の都市住宅に見られる明るく近代的な居間・台所・化粧室は、日本人の内部に秩序をもつという考えが変わったことを示している。

③　家を「うち」と考え、家の外の空間を「そと」と考える日本人の空間認識と、西欧の伝統としての「内部」「外部」の意識との間には、大きなへだたりがある。

④　西欧の住宅地にみられる、塀のない手入れのいきとどいた前庭は、住まいを都市空間の一部であるとする意識の現れである。

⑤　日本の都市に親密感や安心感があるのは、日本人の空間領域に意識の上で内外の別がなく、都市空間が内的秩序の空間になっているからである。

第二十三講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　芦原義信＝あしはら　よしのぶ（一九一八〜二〇〇三）東京都生まれ、東京帝国大学工学部建築学科卒、ハーバード大学で修士号を取得。建築家としての主な仕事に、オリンピック駒沢体育館、銀座のソニービル、池袋の東京芸術劇場などがある。なお、住宅や建築に焦点をあてた文化論は、スタディサプリ「高3トップ＆ハイレベル現代文」第二講があります。こちらにもぜひチャレンジしてみてね。テーマへの理解が深まりますよ。

語句

卑近＝ひきん→身近でわかりやすいこと。通俗的日常的でなじみ深いもの。「卑(いや)しい」という字を使いますが、とりたてて否定的な意味ではなく、謙遜して、〝身近な例ですまないね〟くらいの感じで使われることが多い

検討＝けんとう→よく調べて考えること

同音異義語１　見当→おおよその方向性を考えること。予測、見通しを立てること

同音異義語２　健闘→全力を尽くして戦ったり努力すること

同音異義語３　拳闘→ボクシングのこと

丹前＝たんぜん→全体に綿のはいった袖の広い着物で、浴衣の上から着るもの

闊歩＝かっぽ→大またで悠々、堂々と歩くこと。いばって思うままに行動すること

景勝＝けいしょう→景色がすばらしいこと　景勝地＝眺めのいい観光地

復習問題　第二十三講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）分かりやすくヒ近な例を出す　①日　②被　③妃　④非　⑤卑
（イ）深く議論し検トウを重ねる　①到　②踏　③闘　④当　⑤討
（ウ）披露宴に正ソウして臨む　①相　②奏　③装　④遭　⑤荘
（エ）土台の構造がガン丈である　①玩　②頑　③元　④顔　⑤厳
（オ）セイ巧な錠前を付ける　①精　②正　③制　④静　⑤清
（カ）硬苦しい雰イ気をほぐす　①易　②居　③意　④囲　⑤衣
（キ）外と内とのキョウ界を考える　①競　②共　③境　④鏡　⑤経
（ク）教室に机をセイ然と並べる　①制　②整　③正　④聖　⑤斉
（ケ）ジュウ実した時間を過ごす　①重　②充　③住　④柔　⑤従
（コ）和服の柄や模ヨウを鑑賞する　①洋　②揺　③用　④様　⑤妖

第二十三講　日本文化論・建築論

《本文の対比構造》

主役＝日本の建築

靴をぬぐ「うち」重視

家や家族中心にした内的秩序

外部や都市空間には無関心

（例）旅館……ロビーや廊下は「うち」

主な対比

比較相手＝西欧の建築

靴をはいたまま暮らす

外的秩序

都市空間の充実

（例）西洋式ホテル

……ロビーや廊下は「そと」

（例）広場などの美しい模様の舗装

《解説》

問１《空欄補充・選択肢》

　A は、日本人の「内部」の話ですから①の「家」です。直後の、同宿の人々が「家族の一員であるようにふるまう」も大きなヒントですね。④の「街」では外部ですから、対比混乱の誤りです。②の「庭」は外部です。家に付いているとしても、靴をはきますから。対比混乱の誤りです。一方、③の「室」は「内部」ではありますが、細分化しすぎです。最適なものを選ばないとね。一方、 B は「靴をはく」「外的秩序」のほうです。しかも「ロビーや廊下を歩く」という例の言い換えですから、③の「街路」が正解です。他の「世間」「世界」では広すぎ漠然としすぎです。④の「会社」は具体的ですが「歩く」場所としてはそぐわないでしょ。オフィスは靴をはくでしょうが、通常はデスクについて座ってお仕事ですからね。 C と D も対比です。直後に「内的秩序には外的秩序にない親密感や安心感があり」とあって、さらに「仲間意識」「くつろぎ」とあります。 C は、「外的秩序」ですから、これら「親密・安心・仲間・くつろぎ」の反対です。したがって、③の「対立」を選びます。①の「融合」では、個人がとけあってしまいます。対比混乱の誤りです。②の「隣接」は正しい対比喪失の誤りです。近くで隣り合っているのか、遠く離れた関係かは比べていませんから。 D は、その個人の対立がなく、「わけへだてのない」状態です。内側には「境界」がないわけですから④の「集合」を選びます。さすがに個人が「消滅」し、どろどろの一体感の中にいるわけではありません。一方、①の「交際」や③の「互助」は自律した個人が取り結ぶ関係ですから、×です。どちらも対比混乱の誤りです。家族内で「交際」しているとか「互助」関係にあるとか、ヘンでしょ。

問２《傍線部説明・記述》

　本文にすでに挙げられている例は、「たまたま泊り合わせた人々と馴れ馴れしくしたり、ゆかた、パジャマ、ステテコだけで闊歩する」です。他の例を出さなければなりません。寝台車やホテルのロビーで、わが家のごとくくつろぐ例ですから、大きな声で会話する、内輪話をする、大声で笑う、電話でしゃべる、食べ物を分け合う、下着姿になるなどでしょう。他にも、爪を切る、化粧をする、鼻をほじる、耳かきするなどでもＯＫでしょう。すべて〝家でやれよ〟と言いたくなります。〝家でやろう〟というマナー広告もありましたねえ。点になるポイントでいうと、「家でするように」「自宅のように」「わが家のように」が第

一ポイント、以下第二ポイントは、先に挙げた「大声で会話する」などです。

問３《傍線部説明・記述》

「靴をぬいでいる」と「靴をはいている」と関連づける、これらの単語を盛り込むことは、設問条件です。そこで「靴をぬいでいる」という表現とセットになるものとして、「家」という指摘があれば、これが第一ポイント、さらに「内的秩序」という表現が入って、第二ポイントです。さらに「親密感」「安心感」「仲間意識」「くつろぎ」のいずれかの指摘が入って第三ポイントです。他方、「靴をはいている」とセットになる表現として「外部」や「外的秩序」が入っていたら第四ポイントで、それについて「無関心」「考えがない」などの打消し表現が入っていたら、第五ポイントです。全部で五つポイントを設定しました。三つ獲得できれば合格です。なお、「理由」を問うている設問ですので、しめくくりは「から」「ので」「ため」としてください。それがないと1点減点です。さらに「句読点」を数えますから、「。」が、結末にないと、1点減点ですよ。

問４《全文の理解・選択肢》

①はしらじらしいほどの対比混乱の誤りと不当な当為判断の誤りを犯しています。まず、「床の間」は「うち・家」で日本人が重視するものとしてOKですが、「広場」は外部の都市空間です。問3でも見たように、日本人の配慮が行き届かない領域ですね。これら対比事項を混ぜたらいけません。対比混乱の誤りです。さらに「都市空間の充実につながるべき」としていますが、これが不当な当為判断です。〝当為判断〟というのは、〝当然なすべし〟と言う意味です。本文にはない指摘です。本文は、冷静に日本と西欧を比べ、その特徴を「内的秩序」「外的秩序」として整理分析しているだけです。どっちが優れているという価値判断もしていません。事実としてある両者の特徴の比較をしているだけです。筆者は、「外的秩序は内的秩序に必ずしも優っているとも考えられない」とまで、断り書きをしています。こうした事実判断と当為判断は別物ということが肝心です。多くの文章は、事実判断です。そんなときに、よくある間違いの選択肢として〝○○すべし〟とやってしまう不当な当為判断があるのです。よーく覚えておいて。②は、あからさまなほどの正しい対比喪失の誤りです。この文章は、日本と西欧の対比であって、日本の昔と今を比べておりません。言い換えると、〝最近・近代的・明るい⟷かつて・前近代・暗い〟なんて比べちゃいません。

これを正しい対比喪失の誤りと呼ばずして他に何と呼ぼう！　③は本文の正しい対比をふまえています。正解です。④も正解です。「西欧の住宅地」の「前庭」といった具体例は、直接には本文中には登場しません。今回の大きな主旨として、西欧の「外的秩序」では、靴をはく外部空間を美しくするという意識がはたらきます。ゆえにそれが、家の外の前庭におよぶとしても、本文と矛盾なく、ＯＫといえます。⑤はどうですか。失笑するほどの対比混乱の誤りではありませんか。今回の問題は立教大学の過去問ですから、十分難易度は高いはずなのですが、対比で読む訓練を積んできますと、間違いの仕組みにすぐ気付けるでしょ。はい、「都市空間」は日本人にとっては「外部」ですよね。それを「内的秩序」としてしまいました。また、「内外の別がない」も×です。靴をぬぐかぬがないかで明解な境界があるのでした。したがって、ここは記述に反する誤りです。

模範解答

問１　Ａ＝①　Ｂ＝③　Ｃ＝③　Ｄ＝④
問２　家で振る舞うように大声で話す。（家でのように大声で笑う。家のように食べ物を分け合う。など）
問３　靴をぬいでいる家の親密感など内的秩序を重視するが、靴をはく外部には無関心だから。
問４＝③④（順不同）

復習問題　解答　第二十三講

（ア）⑤　（イ）⑤　（ウ）③　（エ）②　（オ）①
（カ）④　（キ）③　（ク）②　（ケ）②　（コ）④

解答漢字一覧

（ア）卑近　（イ）検討　（ウ）正装　（エ）頑丈　（オ）精巧
（カ）雰囲気　（キ）境界　（ク）整然　（ケ）充実　（コ）模様